

夢を持っているといつもありのままの自分でいられるんだよ

三月みどり『グッバイ宣言』

単位さえ落とさなきゃいいや、学校に行くのは最低限でも。でもまあ、無難に勉強はして、普通に大学にも行って、なんとなくサラリーマンとかになって……。家に籠ってゴロゴロしながら、そんなありきたりな未来を思い描いていた。でも高校最後のあの春に、破天荒で天真爛漫で、そして誰よりも夢に向かって真っすぐなキミに出会い、染められてしまったんだ。正反対のはずだった二人が出会い惹かれ合う。恋と夢の実現という天秤で揺れる、二人の選択は——。本当の自分自身と向き合い、うわべだらけの昨日にサヨナラを宣言し、青い春に狂い咲け！
(MF文庫裏表紙から転載)

僕が進路指導を担当していた時、ある会社の社長さんからこんなことを言われた。

「今の子どもたちって夢も理想も語れない。こんなんでもいいの？」

それから随分と時は経ったが、刻々と変化する今の方がもっと夢を持ちづらい世の中になってしまっていることは間違いない。

ところで、第5回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）監督であった栗山英樹さんの座右の銘は「夢は正夢」であることはよく知られている。夢は見るものではなくて正夢にすべく実現に向けて努力することの大切さを訴えているものと思う。

そうは言っても高校生ともなると、色々わかってくることが多い。「身の丈」とか「分相応」とかいう言葉の意味もわかってくるものである。

『グッバイ宣言』の主人公、桐谷くんもその一人。「夢って…高校生にもなって夢とかないだろ」「どうせ夢なんか持っても叶わないことの方が多いし」と、真剣に夢を語る七瀬に向かってつい言ってしまう。自分の失言を謝る桐谷くんに対し、七瀬は「謝らなくていいよ」とこう言うのだ。

「たしかに夢は叶わないことの方が多いけど、でもね、夢を持っているといつもありのままの自分でいられるんだよ」

「ありのままの自分…？」

「要するに自分らしくいられるってこと！」

なるほど、やりたいことと自分らしさが一致するというのは確かにそうかもしれない。そう思った時、一人の教え子を思い出した。

その生徒は卒業の際の寄せ書きにたった一言「夢」とだけ書いていた。どんな夢なのかはそこに書かれていなかったが、思い当たるものはいくつかあった。海外に関心があってフランスに留学したいとフランス語も勉強していたし、バンドをやっていてコンテストに出るから僕にも見に来いと言うほど音楽にも真剣に取り組んでいた。確かに、やりたいことがはっきりしていたからかなのか、その生徒は確固たる自分を持ったブレない生徒だった。30代の僕よりよっぽどしっかりした“大人”だった。

「自分が思い描くこと以上のことはできませんよ」——これは僕がトラストバンクの須永会長に直接言われた言葉だが、まずは思い描くことがスタート。もちろん、何かを始めてからだんだんと夢につながることもある。自分らしさの延長上に夢はあるのかもしれない。

僕の教え子の夢は何だったのか、今となってはわからない。でも、自分らしさを貫いたに違いない。卒業後しばらくしてその生徒が表紙を飾った音楽雑誌を僕は今でも大切にしておいている。



Special thanks

この3月まで本校で学習指導員として勤務された小山内さんが「生徒がおすすめてくれました」と、この『グッバイ宣言』を私にくださいました。母校である三条高校での勤務を喜んでくださった小山内さん、本当にありがとうございました。引き続き三条高校を応援してください！